

新ブランド「十石」(じっこく)を立ち上げ 月桂冠グループ会社の松山酒造(京都伏見) 新たな酒造りに向けた準備が進展



▲松山酒造の新ブランド「十石」(じっこく)の意匠

月桂冠株式会社のグループ会社である松山酒造株式会社（京都市伏見区東堺町、社長・秦洋二＝はた・ようじ、月桂冠・専務取締役・製造本部長）が、京都にこだわった酒蔵として再スタートを切ることになり、2023年1月からの製造スタイルを一新した酒造りに向けた準備を進展させています。その中で、新たなブランド名を「十石」（じっこく）とすることに決定しました。同年3月から新商品を発売するにあたり、「十石」の酒銘で商品を世に送り出しアピールしていきます。

「十石」の酒銘は、京の街への玄関口として栄えた地元京都・伏見の界隈で、港湾や河川での交通や運送を担った船舶の一つであり、最も小さな部類に入る十石舟をモチーフに命名しました。小さな舟を大海へと漕ぎ出だすが如く、一から新たなスタートを切り、一步一步、歩みを進め、やがては大成していきたいという意志を酒銘に込めています。商品ラベルなどに用いる「十石」の意匠は、「石」の文字の長く伸びる払いの部分で水の流れをあらわし、小さな屋形船を添えることで、十石舟が航行するさまを描いています。

現在、新たな酒造りに向けて、酒蔵の改装、高品質の酒を小スケールで製造できる醸造機械の新たな装備などの準備が進展しています。

今後、初年度はテスト醸造により試しながらの製造に着手し、3年後には年間 350 石（63 キロリットル）を、5 年後には 600 石（108 キロリットル）の出荷・販売を目標としています。



▲酒蔵の改装や新たな酒造りのための設備を実装。すでに、少量高品質の醸造に適合した発酵タンク、圧搾機などの設置が完了している(2022年11月24日撮影)

・松山酒造について

松山酒造は、1923（大正 12）年 1 月創業し、1958（昭和 33）年に月桂冠のグループ会社となり、京都市伏見区下板橋での借蔵による生産を経て、1967（昭和 42）年から同区東堺町の現在地で酒造りを行ってきました。しかし、令和 3 酒造年度（2021 年 7 月からの 1 年間）からは生産を休止していました。そうした中、松山酒造では今後の会社のあり方を模索し、明治期建造の歴史ある酒蔵で酒造りを復活させる道を選択しました。2023 年 1 月から、京都にこだわった酒蔵として製造スタイルを一新して仕込みをスタートし、同年 3 月から新たな商品の販売を開始する予定です。

京都産の酒米「祝」や「京の輝き」など「京都の米」を原料に、綺麗で酒造りに適した「京都伏見の水」、「京都の種もやし（麴菌）」、地方独立行政法人京都市産業技術研究所が開発した「京都酵母」の活用による酒造りで、京都にこだわり特徴を追求していきます。酒質は「純米酒」「純米吟醸酒」に特化し、酒米や酵母の種類を変えて製造、容量・容器は 1.8 リットルびんと 720 ミリリットルびんに絞った、シンプルでベーシックな商品構成により展開します。食中酒としてどんな料理とも合う日本酒をめざし、飲食店や情報発信力のある酒販店などでお取り扱いいただくべく営業活動に取り組みます。

酒造りは、月桂冠で高級酒造りを担ってきたベテランの酒造技能者であり、松山酒造の製造部長となった高垣幸男（たかがき・ゆきお）が担当し、クラフトマンシップを発揮して高品質の商品づくりを目指します。高垣幸男は、全国新酒鑑評会（独立行政法人酒類総合研究所と日本酒造組合中央会が共催）で、入賞酒の中でも特に優秀と認められたものに授与される「金賞」を 8 回受賞、2019 年には京都市伝統産業「未来の名匠」にも認定されるなど、その酒造技能が顕彰されています。

・歴史由緒

松山酒造の所在地には、もともと江戸期の薩摩島津伏見屋敷がありました。天璋院篤姫の京滞在時の宿泊地であり、寺田屋で襲撃された坂本龍馬は川舟でこの地へ逃れて傷を癒し、また、龍馬と妻のお龍が薩摩に向け旅に出た、日本最初の新婚旅行の出発地でもあります。慶応 4（1868）年の鳥羽伏見の戦いで武家屋敷は焼失しましたが、明治 45（1912）年、月桂冠がその跡地に酒蔵を構えました。この歴史的な由緒にあふれる地で、松山酒造は新たな酒造りを芽吹かせようとしています。



▲江戸時代の薩摩島津伏見屋敷跡の石碑

■会社概要

松山酒造株式会社

設立：1923(大正 12)年 1 月、1958 (昭和 33) 年、月桂冠が酒造権を取得し関係会社に

所在地：京都市伏見区東堺町 472 番地

資本金：2,340 万円

従業員数：1 名 ※2022 年 9 月 1 日現在

代表者：代表取締役 秦 洋二

主な事業内容：日本酒製造

売上高：8,950 万円 (2021 年度)

ウェブサイト：<https://www.matsuyamasake-kyoto.com/>